

香川県教育大綱の主な取組状況

香川県教育委員会

目 次

1 学力の育成	1
2 心の育成	6
3 体の育成	12
4 郷土を愛し、郷土を支える人材の育成	17
5 安全・安心で、魅力あふれる学校づくり	21
6 家庭や地域での学びの環境づくり	25
7 スポーツの振興	28
8 文化芸術に親しむ環境づくり(文化芸術による地域づくり)	31

1 学力の育成

令和4年度の主な取組み

確かな学力の育成と個に応じた教育の推進

①	確かな学力の育成	<ul style="list-style-type: none">・ <u>小・中学校全学年での35人学級の実施、小学校高学年での教科担任制の推進</u>・ 児童生徒の実態に応じたきめ細やかな指導の充実と学ぶ意欲・学習に向かう態度の育成
②	読解力の育成	<ul style="list-style-type: none">・ 推薦図書「香川の子どもたちに贈る100冊」の活用推進
③	ICTを活用した教育の推進	<ul style="list-style-type: none">・ <u>学校におけるICT環境の整備と1人1台端末等を活用した教育の推進</u>
④	小・中・高等学校を通じた外国語教育の推進	<ul style="list-style-type: none">・ 中学生の英語力向上事業などによる外国語教育の充実・ 県立高校等へのALTの配置
⑤	幼児期の教育の推進	<ul style="list-style-type: none">・ 幼児教育スーパーバイザーによる指導・助言・ 家庭教育推進専門員による親同士の学びを取り入れたワークショップの開催
⑥	特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none">・ 「多様な学びの場」での一人ひとりに応じた支援体制の充実・ 小豆地域における特別支援学校の整備推進
⑦	校種間連携の推進	<ul style="list-style-type: none">・ 幼小、小・中・高における連携・接続の推進・ 特別支援学校と各学校との連携・接続の推進

学力の定着状況①(小学6年)

全国学力・学習状況調査における全国と香川県の平均正答率の推移【調査区分別】

※平成29年度以降の都道府県の調査区分ごとの平均正答率は、文部科学省から整数値が提供されている。

全国学力・学習状況調査

調査区分	国語A				国語B				国語			
	H27	H28	H29	H30	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
県(公立) 平均正答率(%)	72.3	75.0	75	69	69.5	59.5	59	58	65	中止	63	67
全国(公立) 平均正答率(%)	70.0	72.9	75 (74.8)	71 (70.7)	65.4	57.8	58 (57.5)	55 (54.7)	64 (63.8)	中止	65 (64.7)	66 (65.6)
県と全国との差 (pt)	2.3	+2.1	0	-2	4.1	+1.7	+1	+3	+1	中止	-2	+1

調査区分	算数A				算数B				算数			
	H27	H28	H29	H30	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
県(公立) 平均正答率(%)	74.3	78.2	79	64	47.0	46.7	48	53	68	中止	71	65
全国(公立) 平均正答率(%)	75.2	77.6	79 (78.6)	64 (63.5)	45.0	47.2	46 (45.9)	52 (51.5)	67 (66.6)	中止	70 (70.2)	63 (63.2)
県と全国との差 (pt)	-0.9	+0.6	0	0	+2.0	-0.5	+2	+1	+1	中止	+1	+2

(注) 令和元年度から「A問題」、「B問題」の区別がなく、知識と活用を一体的に問う調査問題が出題されている。

小学校における平均正答率は、国語、算数ともに全国平均を上回っています。

学力の定着状況②(中学3年)

全国学力・学習状況調査における全国と香川県の平均正答率の推移【調査区分別】

※平成29年度以降の都道府県の調査区分ごとの平均正答率は、文部科学省から整数値が提供されている。

全国学力・学習状況調査

調査区分	国語A				国語B				国語			
	H27	H28	H29	H30	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
県(公立) 平均正答率(%)	76.0	77.2	78	76	64.9	67.5	71	60	73	中止	64	70
全国(公立) 平均正答率(%)	75.8	75.6	77 (77.4)	76 (76.1)	65.8	66.5	72 (72.2)	61 (61.2)	73 (72.8)	中止	65 (64.6)	69 (69.0)
県と全国との差 (pt)	+0.2	+1.6	+1	0	-0.9	+1.0	-1	-1	0	中止	-1	+1

英語※			
R元	R2	R3	R4
55	中止	実施無	実施無
56 (56.0)	中止	実施無	実施無
-1	中止	実施無	実施無

調査区分	数学A				数学B				数学			
	H27	H28	H29	H30	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4
県(公立) 平均正答率(%)	64.4	63.8	66	67	41.3	44.6	49	46	60	中止	56	55
全国(公立) 平均正答率(%)	64.4	62.2	65 (64.6)	66 (66.1)	41.6	44.1	48 (48.1)	47 (46.9)	60 (59.8)	中止	57 (57.2)	51 (51.4)
県と全国との差 (pt)	0	+1.6	+1	+1	-0.3	+0.5	+1	-1	0	中止	-1	+4

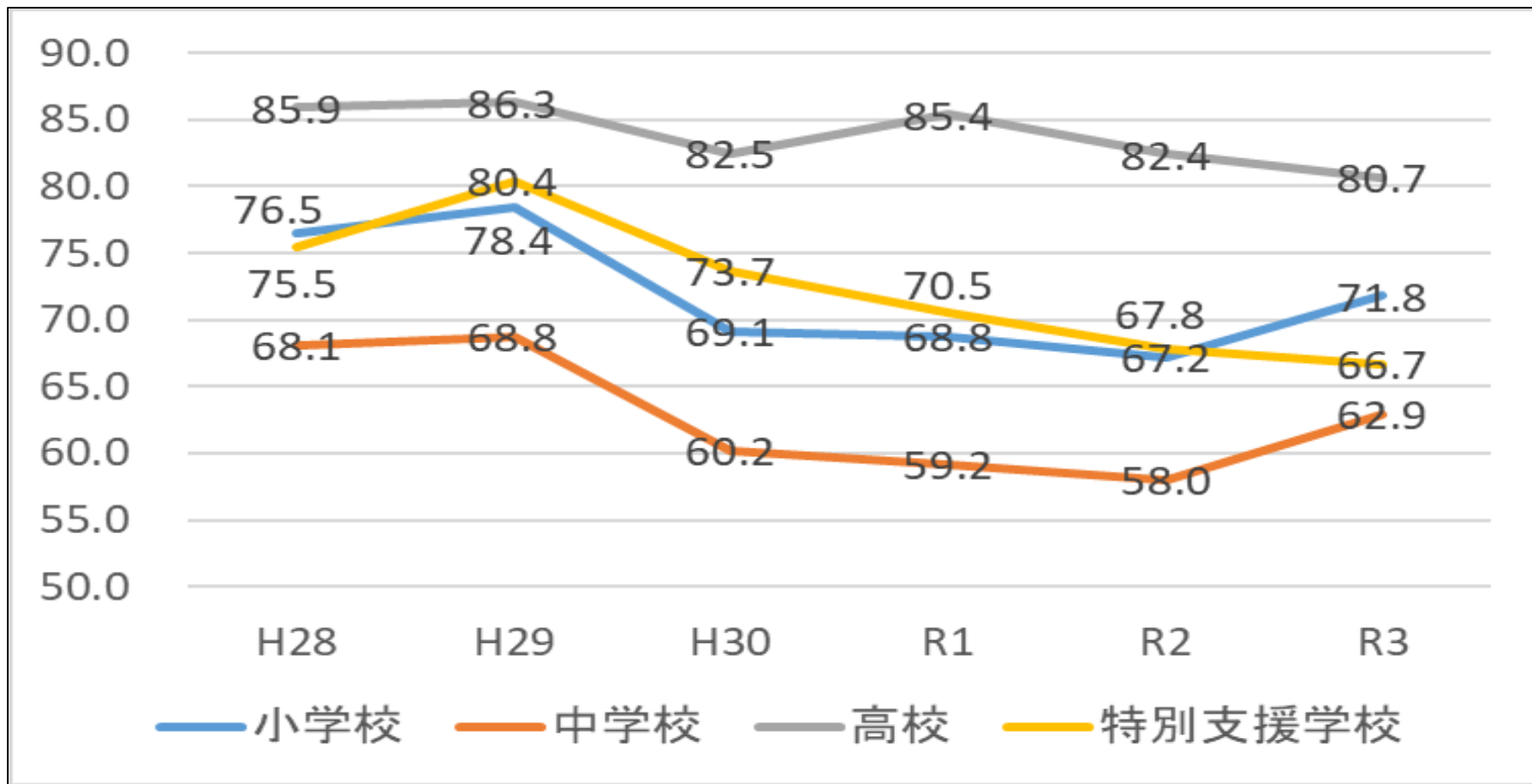
※令和元年度から始まった英語の調査結果は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計を集計している。

(注) 令和元年度から「A問題」、「B問題」の区別がなく、知識と活用を一体的に問う調査問題が出題されている。

中学校における平均正答率は、国語、数学ともに全国平均を上回っています。

ICTを活用して指導できる割合

パソコンや電子黒板などを活用して効果的な指導ができているかなどを教員に質問し、「できる」「ややできる」と回答した割合



学校における教育の情報化の実態等に関する調査

小・中学校においては令和2年度末に1人1台端末が整備され、令和3年度にはその活用の進展が見られますが、更に進めていく必要があります。

※H29とH30で質問が変わったため単純比較できない。

1 学力の育成

主な課題、方向性等

確かな学力の育成と個に応じた教育の推進

- ・ 小学校高学年における専科指導の拡充など、小・中学校におけるより効果的な指導体制の実現
- ・ 学習の基盤となる読解力の育成と読書習慣づくり
- ・ 教育現場における I C T 環境の整備と教員の I C T 活用への支援
- ・ 各学校段階を通じた英語教育の充実
- ・ 幼児期における教育の充実と小学校教育との円滑な接続
- ・ 発達障害を含む障害のある児童生徒の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進

「個に応じたきめ細かな指導」と「個を活かす協働的な学び」を一体的に推進していく必要がある。また、ICT活用教育の効果的な推進に向け、教員を支援していく。

2 心の育成

令和4年度の主な取組み

豊かな心、多様性を尊重する心の育成

① 道徳教育の充実	<ul style="list-style-type: none">・ 考え議論する道徳の授業の充実・ 救急救命士等による「いのちのせんせい」出前授業の実施
② 自己肯定感・自己有用感の育成	<ul style="list-style-type: none">・ 集団宿泊学習の実施方法の工夫等、<u>コロナ禍での体験活動の実施・充実</u>
③ 豊かな感性や情操の育成	<ul style="list-style-type: none">・ 小・中・高校における総合文化祭の開催支援・ 「高校生のための瀬戸内アートサマープログラム（SASP）」を開催
④ 人権・同和教育の推進	<ul style="list-style-type: none">・ 「LGBT等に関する教職員研修会」の実施・ 多様性社会に適応するための教職員研修や、児童生徒の参加体験型学習の実施

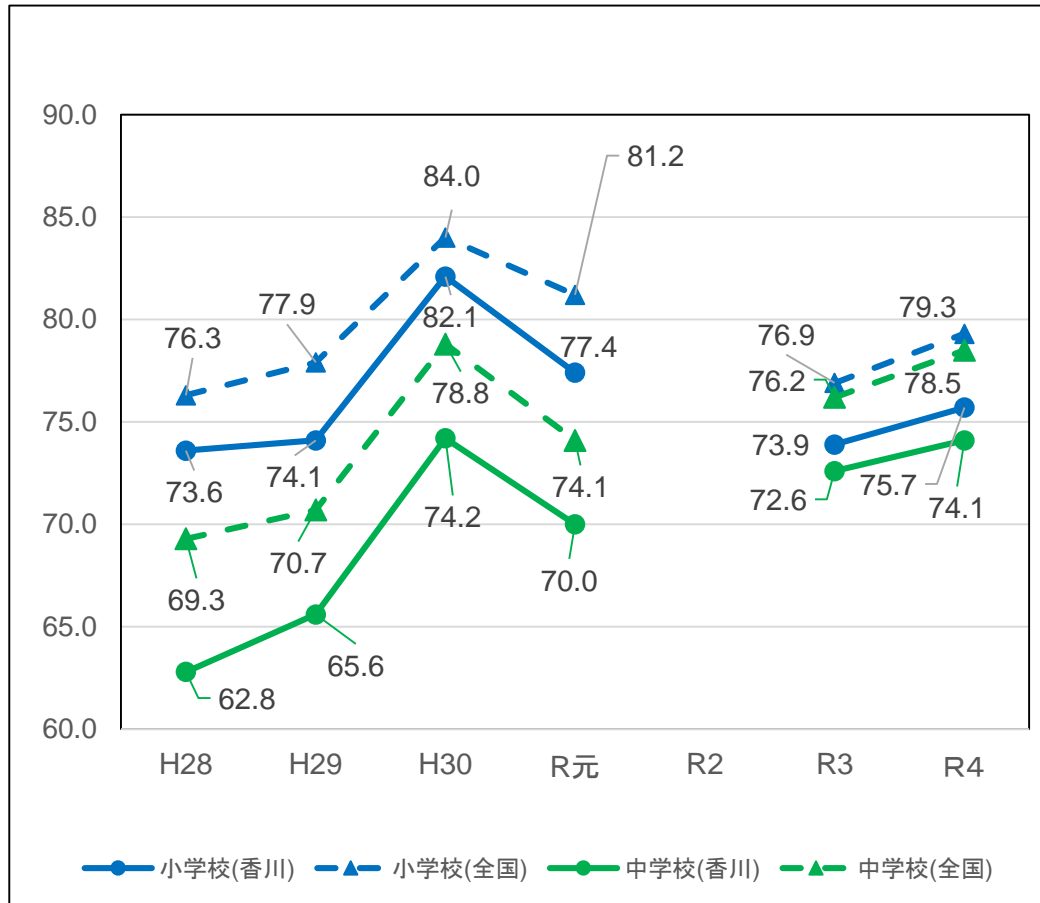
共感的理解に基づく生徒指導の充実

⑤ いじめや暴力の未然防止	<ul style="list-style-type: none">・ <u>スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用と資質向上</u>・ 学校だけでは対応が困難な事案へのスクールサポートチームの派遣
⑥ 不登校児童生徒への支援	<ul style="list-style-type: none">・ 適応指導教室や民間フリースクールとのネットワークづくり・ <u>スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを活用した相談・支援体制の整備</u>
⑦ インターネット適正利用とネット・ゲーム依存予防対策の推進	<ul style="list-style-type: none">・ 情報モラルの育成と有害情報対策等の推進・ ネット・ゲーム依存予防対策の推進

自己肯定感・自己有用感

問) 自分には、よいところがあると思いますか

肯定的に回答した児童生徒の割合



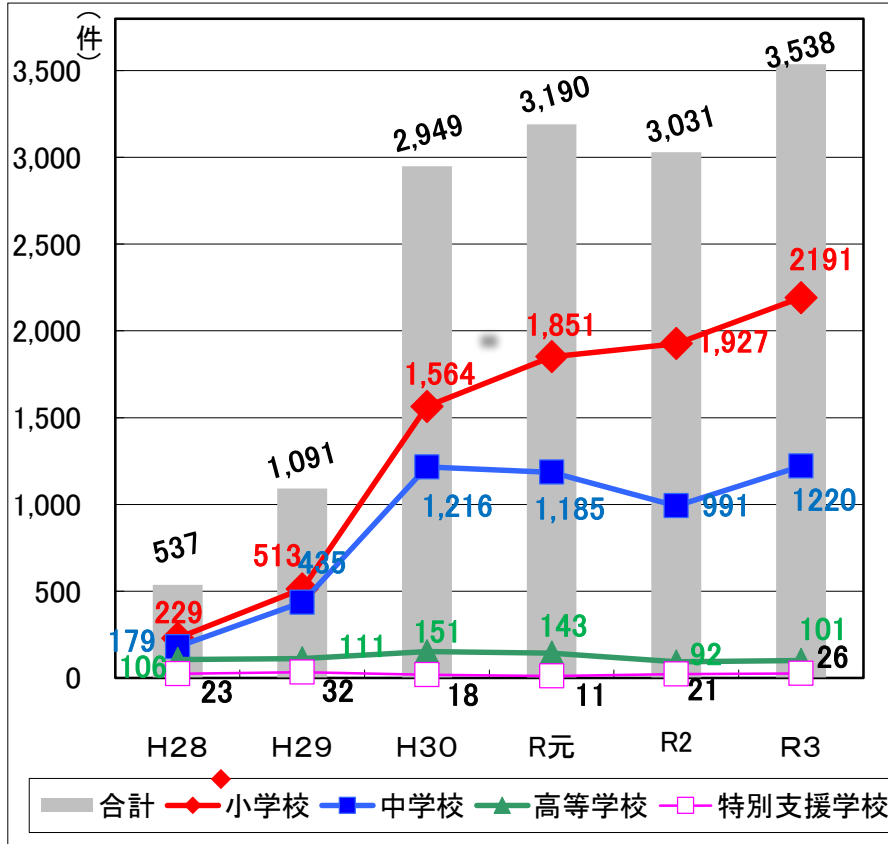
全国学力・学習状況調査

R2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により調査無し。

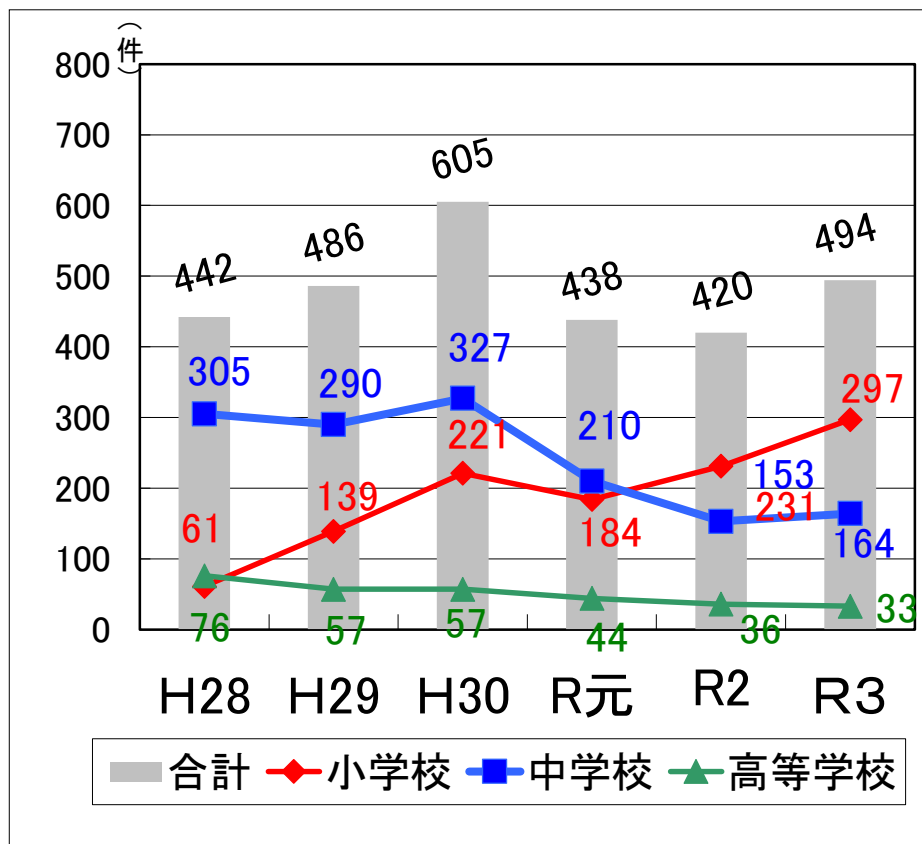
肯定的に回答した児童生徒の割合は、依然として小・中学校ともに全国平均を下回っており、小学校で3.6p、中学校で4.4p低い状況です。

いじめ認知件数、暴力行為発生件数(国公立)の推移

いじめ認知件数の推移



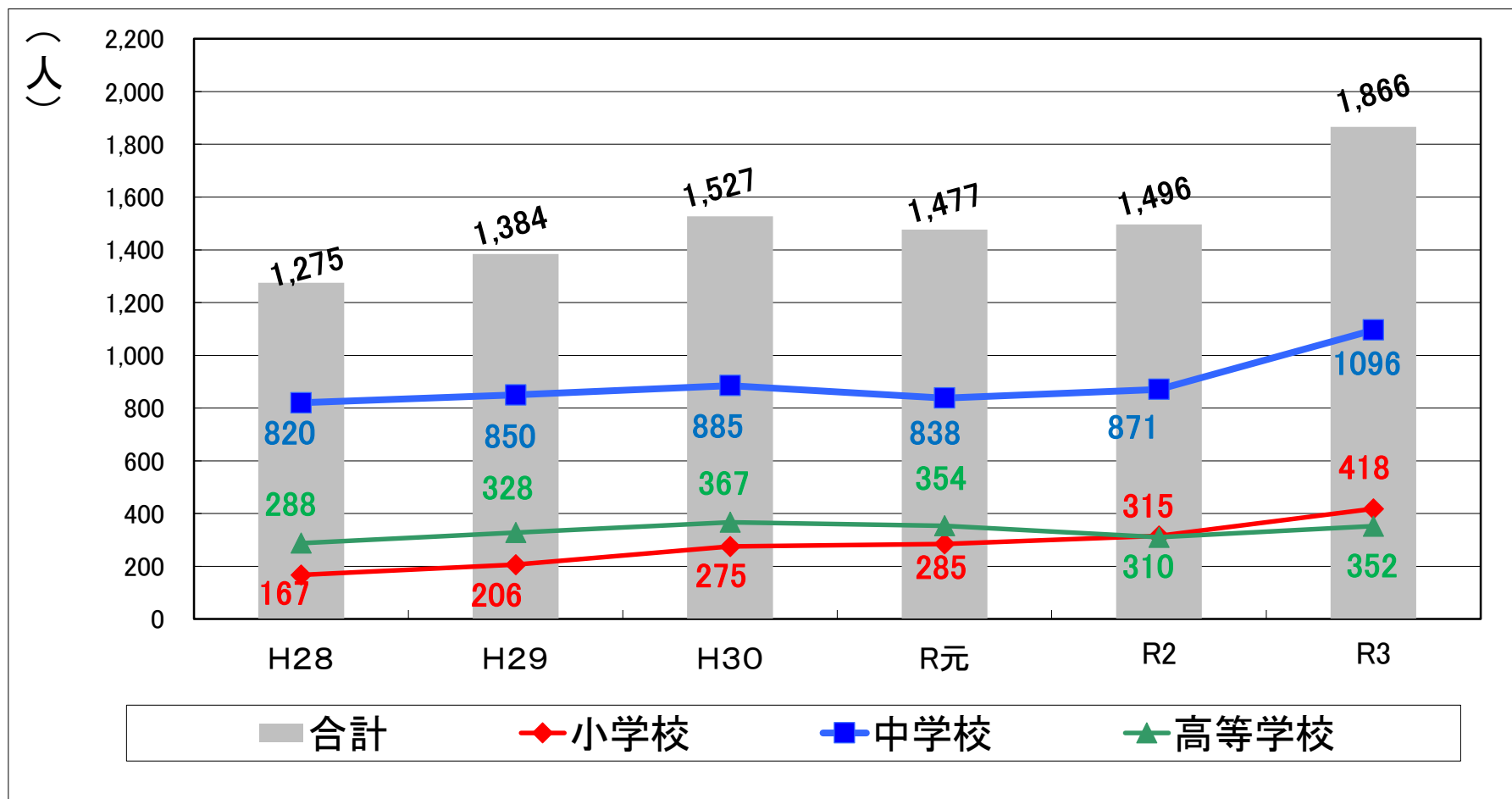
暴力行為発生件数の推移



児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査

いじめ認知件数は、令和2年度と比較すると、全ての校種で増加しています。これは、被害者感情に寄り添い、些細なものも積極認知し、深刻なものを減らそうとしていると思われます。
暴力行為発生件数は、令和2年度から小学校が中学校を逆転しています。令和2年度と比較すると、小・中学校で増加し、高等学校で減少しました。

不登校児童生徒数(国公立)の推移



児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査

不登校児童生徒数は、平成28年度と比較すると、5年間で小学校は約2.5倍、中学校は約1.3倍、高等学校は約2.1倍、合計では約1.5倍に増加しています。

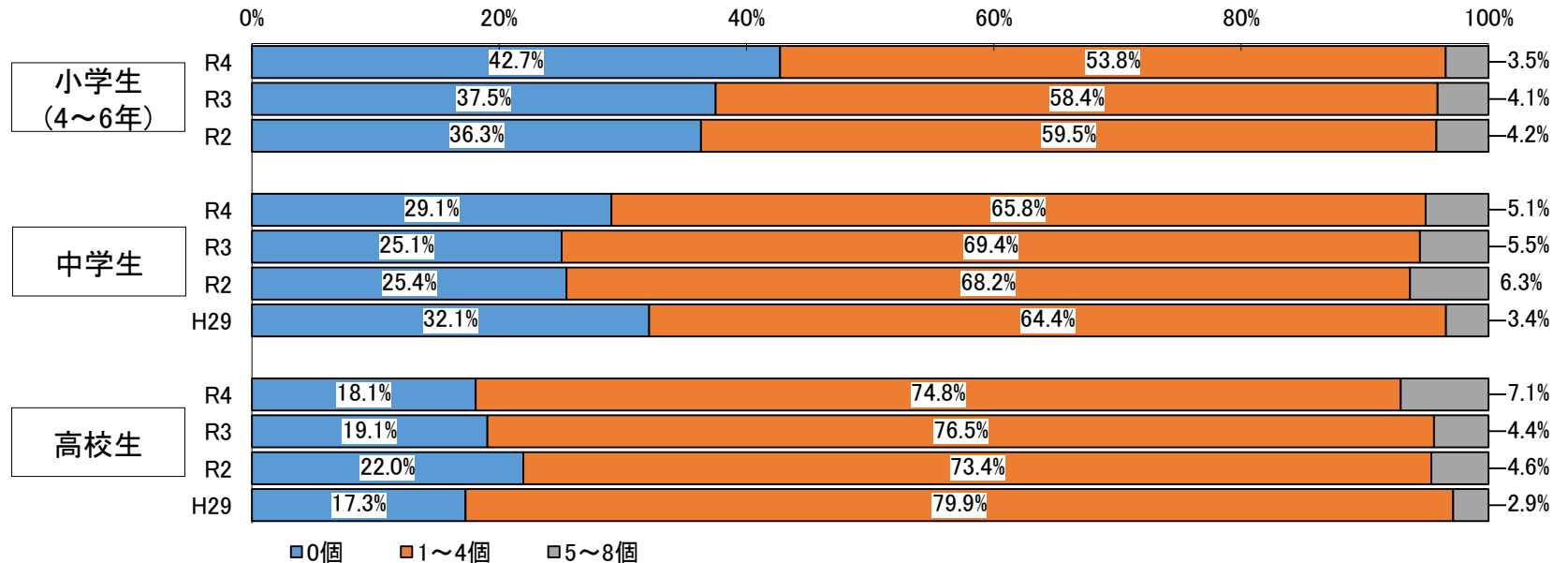
ネット・ゲーム依存の傾向 (H29 (小学生除く)、R2、R3、R4年度)

※自分のスマホ等を所有している、または家族所有のスマホ等を使用していると回答した生徒に対する質問

・下記の8項目のうち、5項目以上に該当する場合、ネット・ゲーム依存傾向として注意が必要
 (厚生労働省研究班による生活習慣についての全国調査(平成29年度)を基に香川県教育委員会で作成)

- ① ネットに夢中になっていると感じる
- ② 満足を得るために、ネットの使用時間をだんだん長くしたいと感じる
- ③ ネット利用を制限したり、時間を減らしたり、完全にやめようとしたが、うまくいかなかったことがよくある
- ④ ネットの時間を減らしたり、完全にやめようとしたとき、落ち着かなかったり、不機嫌や落ち込み、またはイライラなどを感じる
- ⑤ 使い始めに思っていたよりも長い時間ネットを利用している
- ⑥ ネットのために大切な人間関係や学校のことを台無しにしたり、あやうくすることがある
- ⑦ ネットに熱中しすぎていることを隠すために、家族、学校の先生にウソをついたことがある
- ⑧ 問題から逃げるために、または、絶望、罪悪感、不安、落ち込みといったいやな気持ちから逃げるためにネットを利用する

令和4年度 スマートフォン等の利用に関する調査 (香川県教育委員会)



ネット・ゲームへの依存傾向にあると考えられる児童生徒は、年度により増減がありますが、一定程度存在します。

2 心の育成

主な課題、方向性等

豊かな心、多様性を尊重する心の育成

- ・ 学校教育活動全体を通じた道徳教育の推進
- ・ 体験活動やボランティア活動などを通じた、自己肯定感・自己有用感の向上
- ・ 文化芸術にふれ親しむ機会の充実
- ・ 若年教職員に対する人権・同和教育研修の拡充

共感的理解に基づく生徒指導の充実

- ・ いじめ・不登校対策におけるチーム学校の専門家の一層の活用
- ・ 関係機関との連携等による効果的な不登校支援の充実
- ・ 早期発見し福祉機関へつなげるための虐待やヤングケアラーの啓発と研修
- ・ 家庭でのルールづくりなど、ネット・ゲーム依存予防対策の推進

依然として課題である子どもたちの自己肯定感・自己有用感の向上に取り組む必要がある。
いじめや不登校対策については、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなどの専門家の活用を図り、児童生徒に寄り添った対応を行う必要がある。

3 体の育成

令和4年度の主な取組み

未来を支える健やかな体づくりの推進

① 体力づくりの推進

- ・「あそびンピック in Kagawa」や「讃岐っ子パワーみんなでチャレンジ」等の取組みを通じた体力づくり活動の推進
- ・児童生徒が主体的に体を動かす時間を確保できるような授業改善を図るための研修会の実施

② 健康教育の推進

- ・生活習慣病の予防や多様な健康課題への対応のための研修会の実施
- ・新型コロナウイルス感染症を踏まえた指導と感染症対策の徹底

③ 食育の推進

- ・地場産物や季節の郷土料理を取り入れた給食を提供する「ふるさとの食再発見事業」の実施
- ・栄養教諭等による教科等における食に関する指導

児童生徒の体格・肥満傾向(R3)

小学5年男子

体格(全国)

身長	138.4cm	(139.3cm)
体重	34.6 kg	(35.1kg)
肥満傾向児	13.21%	(12.58%)
痩身傾向児	0.89 %	(2.32%)

中学2年男子

体格(全国)

身長	160.0cm	(160.6cm)
体重	50.0 kg	(50.0kg)
肥満傾向児	11.16%	(10.99%)
痩身傾向児	2.05%	(2.73%)

高校2年男子

体格(全国)

身長	169.1cm	(169.8cm)
体重	60.8kg	(60.5kg)
肥満傾向児	7.71%	(10.64%)
痩身傾向児	2.80 %	(3.34%)

小学5年女子

体格(全国)

身長	140.7cm	(140.9cm)
体重	34.9 kg	(35.0kg)
肥満傾向児	7.91%	(9.26%)
痩身傾向児	1.44%	(2.36%)

中学2年女子

体格(全国)

身長	154.4cm	(155.0cm)
体重	47.9 kg	(47.6kg)
肥満傾向児	9.37%	(8.35%)
痩身傾向児	1.72%	(3.22%)

高校2年女子

体格(全国)

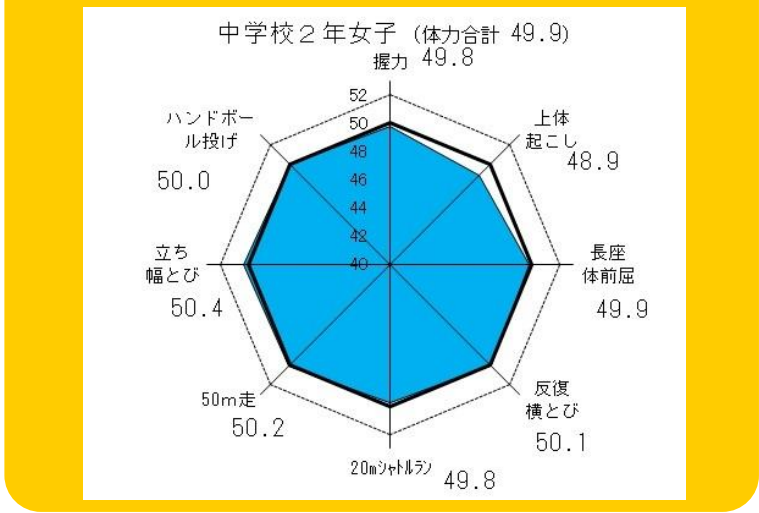
身長	156.7cm	(157.7cm)
体重	51.9kg	(52.3kg)
肥満傾向児	7.17%	(7.20%)
痩身傾向児	1.42 %	(2.33%)

令和3年度 学校保健統計調査

全国と比較すると、肥満傾向児は小5男子、中2男子、中2女子で上回っています。
痩身傾向児は全ての校種で下回っています。

体力・運動能力(T-スコア※)(R4)

※県平均値が全国平均値(50)と比べて、どれくらいの位置にいるかを示した指標。

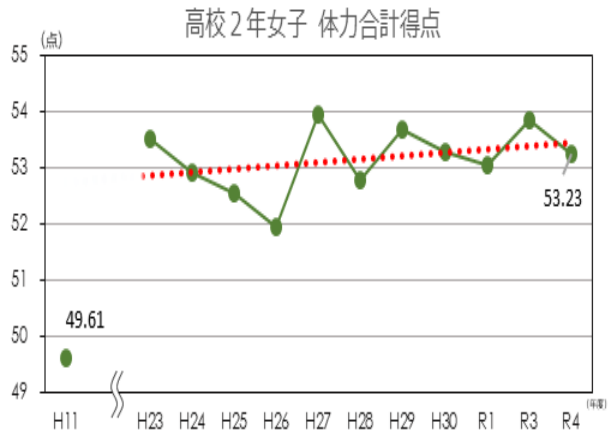
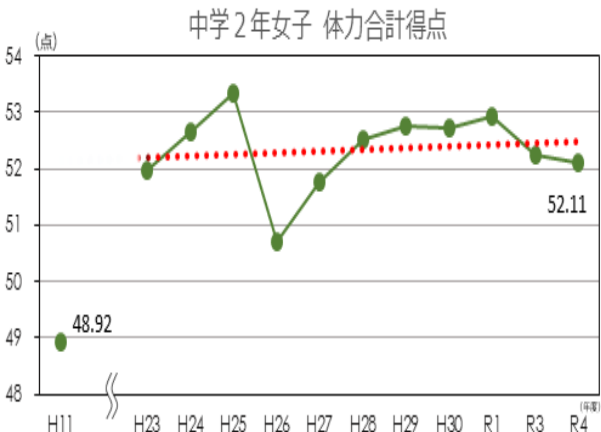
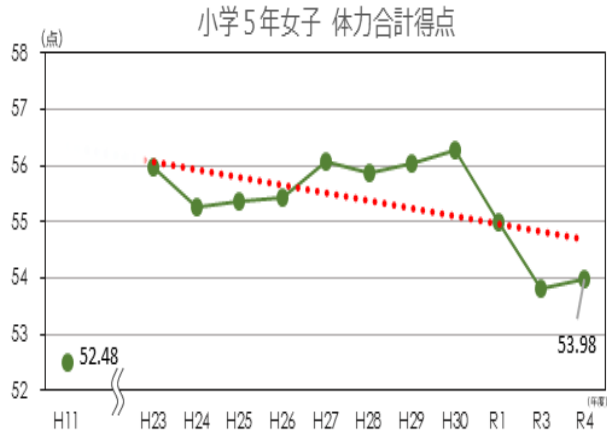
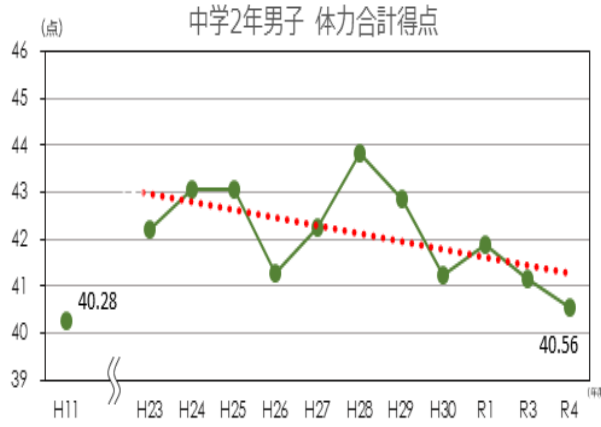
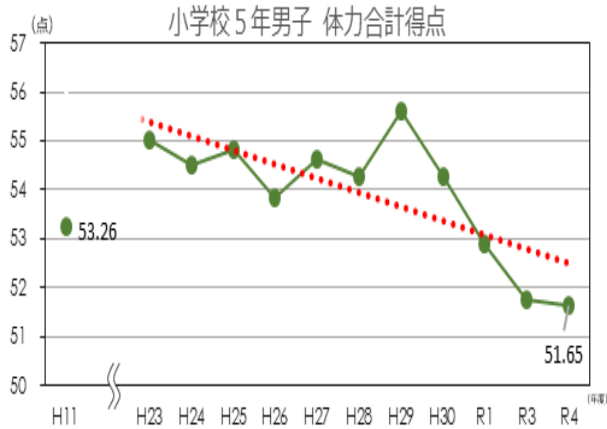


令和4年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査(全数調査)

体力・運動能力を全国と比較すると、体力合計点は小・中学校において男女ともに下回っています。

体力・運動能力(体力合計得点の年次推移)

—●— 香川県 - - - 香川県の近似直線(H23~R4)



令和4年度 香川県体力・運動能力調査(全数調査)
令和2年度は、調査中止

体力・運動能力における体力合計点の直近10年程度の推移をみると、男子は小・中・高校生ともに低下傾向で、女子は中・高校生が横ばいで推移、小学生は低下傾向となっています。

3 体の育成

主な課題、方向性等

未来を支える健やかな体づくりの推進

- ・ 児童生徒の体格や体力・運動能力の向上
- ・ 運動、食事、休養及び睡眠を柱とする望ましい生活習慣の確立
- ・ 生涯にわたって自分の心と体に向き合いながら、主体的に健康を保持していこうとする態度の養成
- ・ 多様化する健康課題への対応
- ・ 発達段階に応じた食に関する理解と望ましい食習慣の確立

本県の子どもたちの体力は全国平均並みかやや低い状況が続いており、引き続き体力向上を図る必要がある。

新型コロナウイルス感染症をはじめ、アレルギー疾患や視力低下、性に関する問題や災害・事故発生時における心のケアなど、多様化する健康課題にも対応していく必要がある。

4 郷土を愛し、郷土を支える人材の育成

令和4年度の主な取組み

郷土を支える教育の推進

- | | | |
|---|---------------|--|
| ① | 郷土に誇りを持つ教育の推進 | <ul style="list-style-type: none">・ 読本、副教材を活用したふるさとに誇りを持つ教育の推進・ <u>児童生徒参画型のふるさと教材（ふるさとかるた）の作成</u> |
| ② | 社会に参画する力の育成 | <ul style="list-style-type: none">・ 模擬選挙の出前授業など、主権者教育の充実 |
| ③ | キャリア教育の推進 | <ul style="list-style-type: none">・ ジョブ・サポートティーチャーの配置・ 新規学卒者のための職場定着サポート |

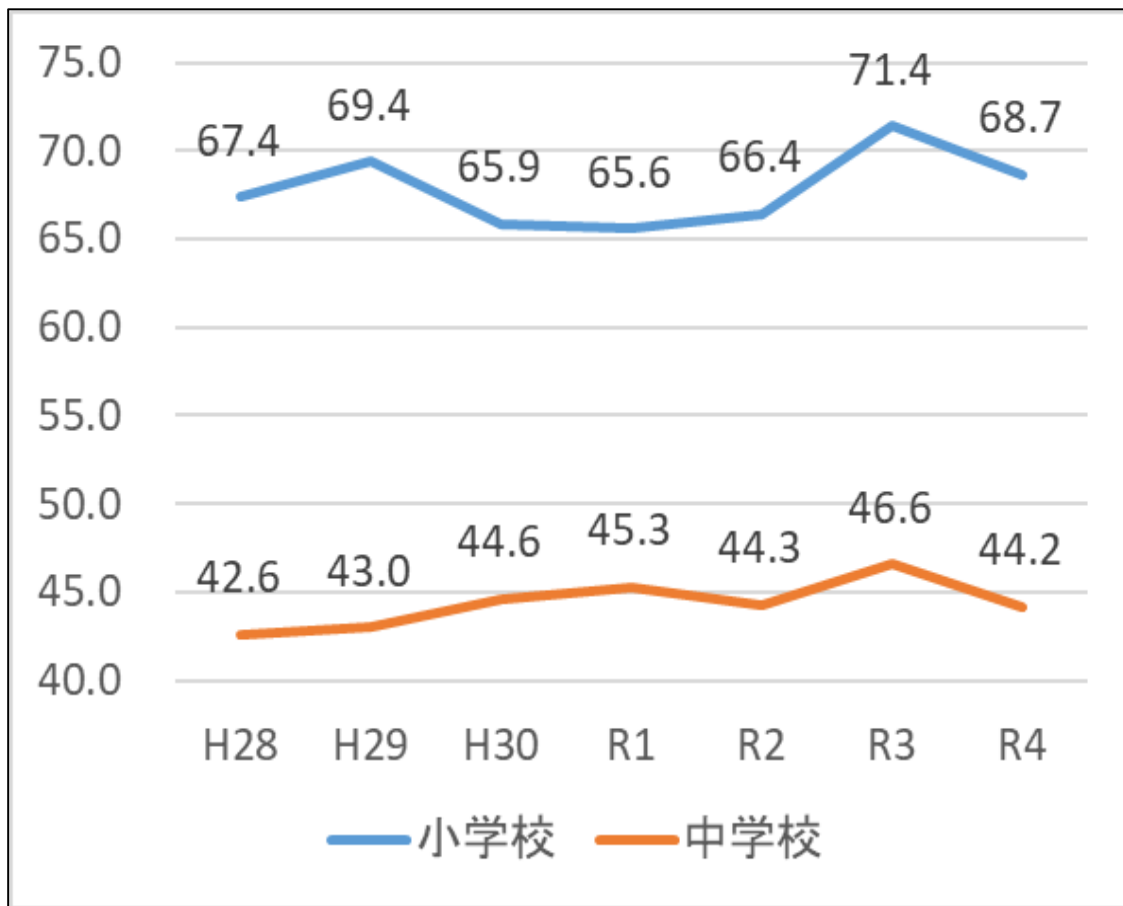
地域を担うグローバル人材の育成

- | | | |
|---|------------|--|
| ④ | グローバル人材の育成 | <ul style="list-style-type: none">・ 語学力やコミュニケーション能力、情報活用能力の養成・ 外国語活動や英語科の授業でのALT等との交流や、社会科、総合的な学習の時間等を通じた、外国の生活や文化の理解 |
| ⑤ | 課題解決能力の育成 | <ul style="list-style-type: none">・ 学校における総合的な学習（探究）の時間等の教科等横断的な学習・ 課題解決型ワークショップの充実等による、課題発見や分析、評価、解決等の課題解決に関わる資質、能力の育成 |

今住んでいる地域（香川県）への関心

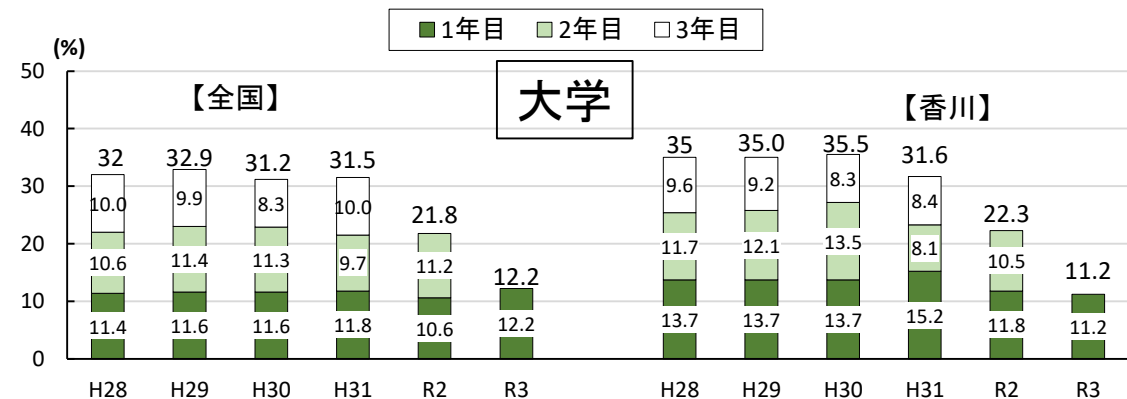
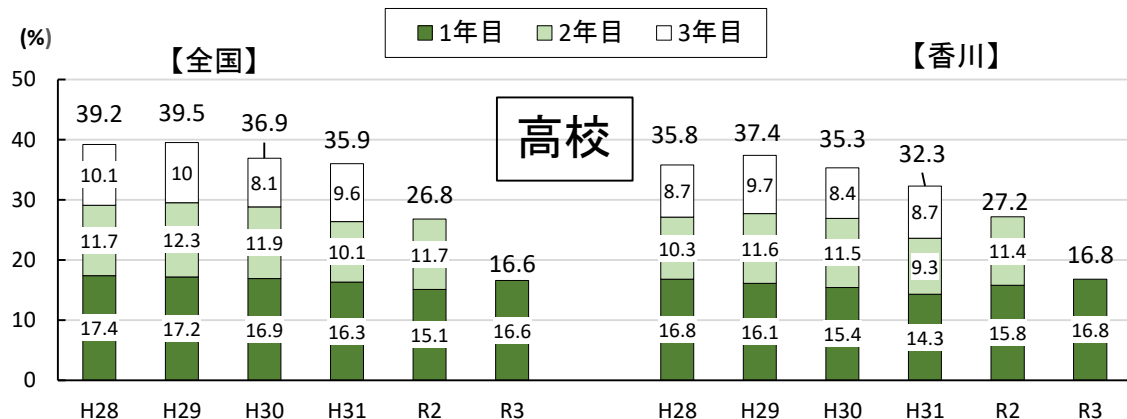
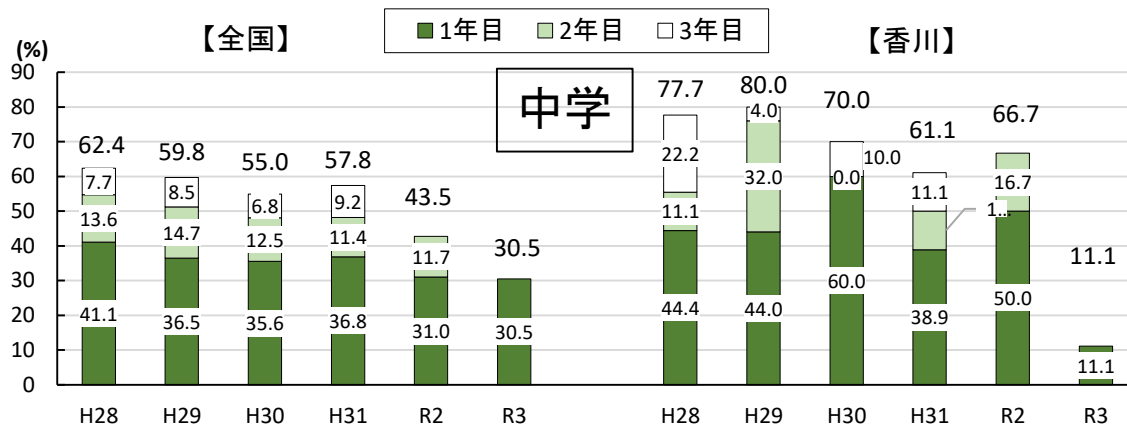
問) 今住んでいる地域（香川県）の歴史や自然、産業について関心がありますか

肯定的に回答した児童生徒の割合



今住んでいる地域（香川県）への関心について肯定的に回答した割合は、小学生が約7割、中学生が約4割となっています。

新規学卒者の 在職期間別 離職率の推移



高校卒業者の離職率については、香川労働局や県教委の職場定着に係る取組みなどにより、減少傾向にあります。

4 郷土を愛し、郷土を支える人材の育成

主な課題、方向性等

郷土を支える教育の推進

- ・ 郷土に対する愛着や誇り、郷土の発展に主体的に参加する意欲や態度の育成と、郷土を支える人材づくり
- ・ 発達段階に応じたキャリア教育の推進
- ・ 成人年齢の引き下げを踏まえた主権者教育・消費者教育の推進

地域を担うグローバル人材の育成

- ・ 語学力やコミュニケーション能力、情報活用能力の養成
- ・ 課題の発見や分析、評価、解決など課題解決に関わる資質・能力の育成

人生の重要な視座の確立に繋がる、郷土に対する愛着や誇りの育成に取り組む必要がある。
若い時期から郷土の歴史や伝統文化、産業等への理解を深め、地域との関わりの中で自身の世界観を広げていけるよう、発達段階に応じた体系的なキャリア教育の推進に努めるとともに、グローバルな視点を持ちつつ、地域の課題に興味を持ち解決していく資質、能力を育成していく必要がある。

5 安全・安心で、魅力あふれる学校づくり

令和4年度の主な取組み

安全で安心できる学校づくり

①	学校の安全・安心の強化	<ul style="list-style-type: none">・学校防災アドバイザーの学校への派遣による防災体制の整備や防災教育の充実・警察・道路管理者と連携した各市町の通学路交通安全プログラムの構築推進・全県立高校における自転車運転免許制度の実施
②	学校施設等の整備、充実	<ul style="list-style-type: none">・施設・設備の老朽化対策・「小豆島みんなの支援学校」の整備、特別支援学校の教室不足解消対策・東讃地域の統合高校の整備に向けた準備
③	学びのセーフティネットの構築	<ul style="list-style-type: none">・幼児、児童、生徒の就学支援・三豊市の夜間中学の運営支援

教職員の資質・能力の向上

④	優れた教職員の確保と資質・能力の向上	<ul style="list-style-type: none">・教員採用試験における秋募集（R元～）、関西会場での採用試験の実施・「香川県教員等人材育成方針」の改定・退職教員による「さぬき学びの支援隊」の活用
⑤	学校における働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none">・部活動指導員やスクールサポートスタッフ等の活用・時間外在校等時間の把握、優良取組事例の周知等の啓発・公立中学校における休日の部活動の地域移行の実践研究

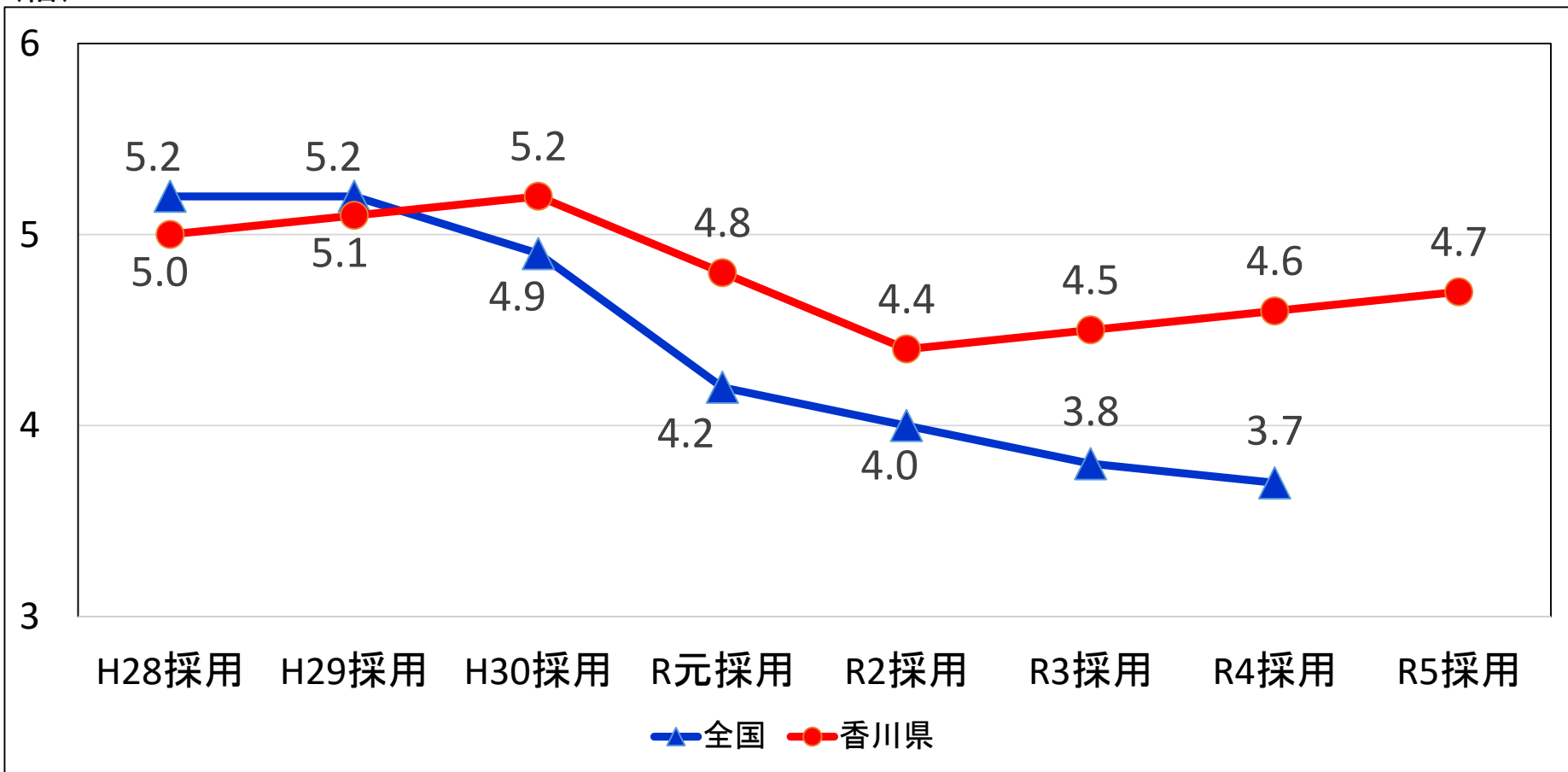
信頼され魅力ある学校づくり

⑥	地域と協働する学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none">・学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）の理解促進・地域住民と連携した行事や授業、学校運営の実施
⑦	学校の特色化・魅力化の推進	<ul style="list-style-type: none">・すべての公立高校と県立中学校で全国からの生徒募集を実施・「魅力あふれる県立高校推進ビジョン」に基づく県立高校の魅力向上

教員採用試験 全体※の競争率(採用倍率)の推移

※全体…小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、養護教諭、栄養教諭の合計

(倍)

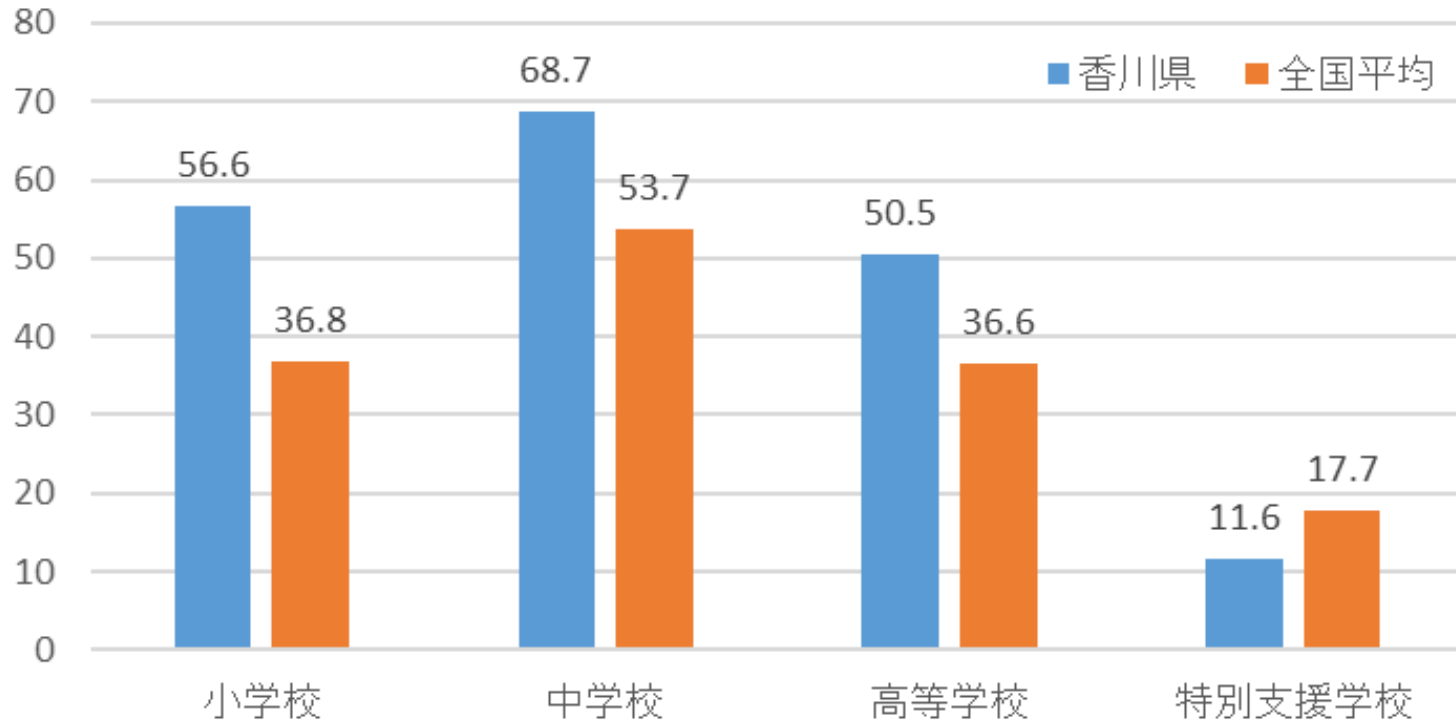


全国的に教員志願者が減少し、競争率(採用倍率)が下がっている中、香川県は一定程度の競争率(採用倍率)を維持しています。

教職員の働き方改革

1か月の時間外在校等時間が45時間を超える教職員の割合

(R4.4~7月の平均)



※出典:「令和4年度教育委員会における学校の働き方改革のための取組状況調査」(R4.12月文部科学省)

1か月の時間外在校等時間が45時間を超える教職員の割合を全国と比較すると、小・中・高校において上回っています。

5 安全・安心で、魅力あふれる学校づくり

主な課題、方向性等

安全で安心できる学校づくり

- ・ 登下校時の交通事故や犯罪、自然災害への対策
- ・ 施設・設備の老朽化対策
- ・ さまざまな理由により十分な教育が受けられていない人への教育機会の提供

教職員の資質・能力の向上

- ・ 教育の質の向上を実現する教員の確保
- ・ 学校における働き方改革のより一層の推進

信頼され魅力ある学校づくり

- ・ ここで学びたい、学ばせたいと思えるような学校づくり

引き続き、児童生徒の安全・安心の確保に努める必要がある。
また、魅力ある優れた教員の確保に努めるとともに、学校における働き方改革を推進する必要がある。
学校の特性や地域性等を生かした特色のある教育活動について研究等を行い、魅力的で活気ある高校づくりを進める必要がある。

6 家庭や地域での学びの環境づくり

令和4年度の主な取組み

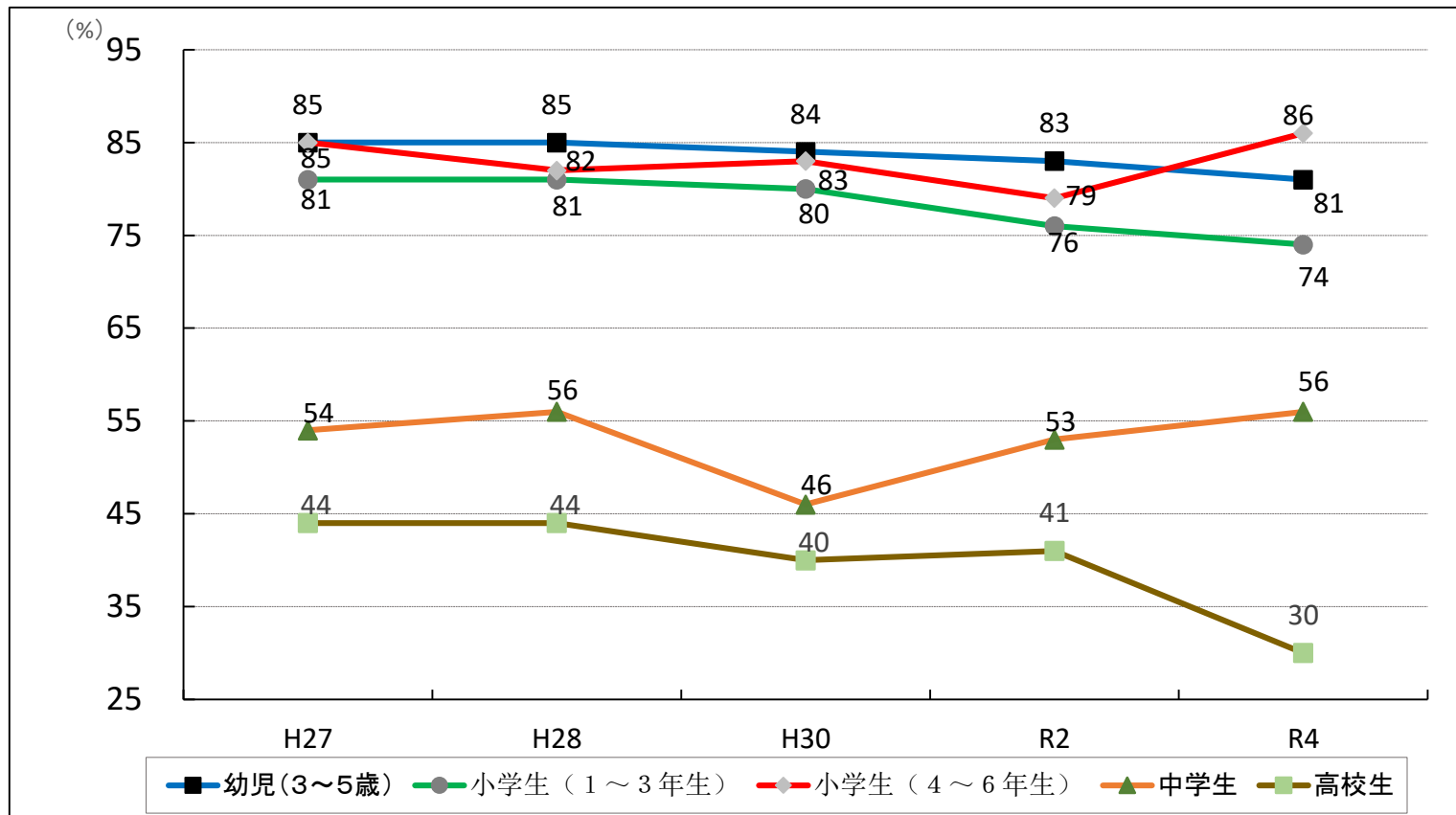
家庭・地域の教育力の向上

①	家庭の教育力の向上	<ul style="list-style-type: none">・「早寝・早起き・朝ごはん」など基本的な生活習慣の啓発・家庭教育推進専門員によるワークショップの開催・教育センターにおける様々な媒体による教育相談の実施
②	地域の教育力の向上	<ul style="list-style-type: none">・地域学校協働活動の推進・子どもの体験・交流活動の充実

いつでも学べる環境づくり

③	子どもが読書に親しめる環境づくり	<ul style="list-style-type: none">・「親子読み聞かせ教室」の開催や読み聞かせアドバイザーのスキルアップ研修の実施・県立図書館における学校支援文庫の充実や読み聞かせボランティアの育成
④	生涯学べる環境づくり	<ul style="list-style-type: none">・香川大学等と連携した「キャンパス講座」の実施・生涯学習情報提供システム「かがわ学びプラザ するするドットネット」によるイベント等の情報提供

家で週1回以上本を読んでいる子どもの割合 (読み聞かせを含む)



香川県教育委員会調査

週1回本を読んでいる子どもの割合は、小学生が約8割、中学生が約6割、高校生が約3割となっており、学校段階が上がるにつれて、本を読まない割合が高くなっています。

6 家庭や地域での学びの環境づくり

主な課題、方向性等

家庭・地域の教育力の向上

- ・ 子どもの成長に応じた保護者に対する啓発活動の充実
- ・ 地域コーディネーターの設置など地域学校協働活動の促進

いつでも学べる環境づくり

- ・ 子どもの読書活動の促進と読解力の育成
- ・ 社会人の学び直しのための教育など、ライフスタイルに応じた学びの機会の提供

家庭環境の多様化に伴い、子育てについての不安や孤立を感じる家庭が増加しており、地域みんなで子育てする機運を醸成する必要がある。

また、依然として、学校段階が進むにつれて本を読まない割合が高くなっており、県の推薦図書の効果的な活用を促すなどしながら読書活動を推進する必要がある。

7 スポーツの振興

令和4年度の主な取組み

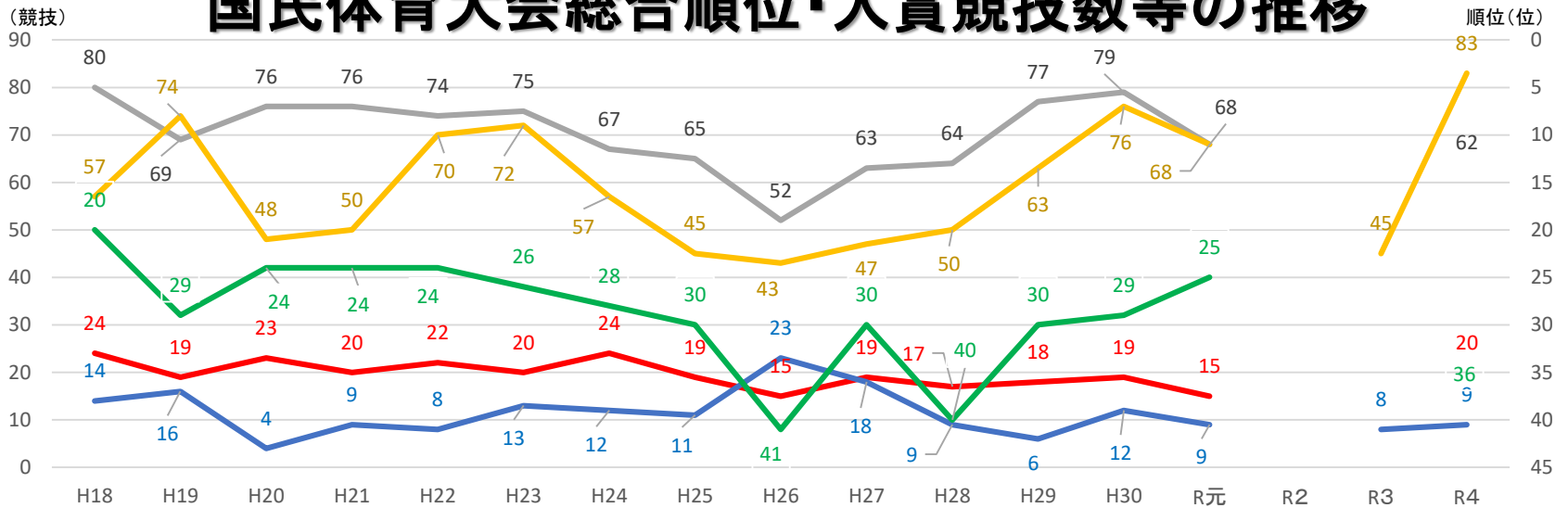
多様なスポーツ環境づくり

① 生涯にわたり スポーツに親しむ ことができる環境 づくり	<ul style="list-style-type: none">・ <u>総合型スポーツクラブの育成支援</u>・ 生涯スポーツ指導者や総合型地域スポーツクラブマネージャーの育成・ スポーツレクリエーション祭等を通じて、スポーツやレクリエーションを気軽に楽しむ機会の提供・ 県立アリーナの整備
---	---

スポーツ競技力の向上

② トップアスリート をめざし、競技力 を高めることが できる環境づくり	<ul style="list-style-type: none">・ <u>スーパー讃岐っ子育成事業等によるジュニア期からの人材の発掘・育成</u>・ トップアスリート育成支援事業等によるトップアスリート育成支援
---	--

国民体育大会総合順位・入賞競技数等の推移



— 国体入賞競技数 (正式競技)
 — 国体入賞数 (得点にかかわらずの種目および公開競技含む)
 — 全国高校総体等入賞数
 — 全国中学校体育大会入賞数
 — 国体総合順位

※新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度は大会が開催されていない。国体は令和3年度も中止。

アジア競技大会・オリンピック大会での出場者数(香川県出身)

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4
アジア競技大会	ドーハ 6	-	-	-	広州 6	-	-	-	仁川 9	-	-	-	ジャカルタ 8	-	-	-	-
オリンピック大会	-	-	北京 0	-	-	-	ロンドン 0	-	-	-	リオデ ジャネイロ 1	-	-	-	-	東京 7	-

全国高等学校総合体育大会等入賞数については、四国での開催ということもあり、入賞数が大幅に増加しました。(2022年アジア競技大会は、2023に延期)

7 スポーツの振興

主な課題、方向性等

多様なスポーツ環境づくり

- ・ 総合型地域スポーツクラブの設立促進
- ・ 一人ひとりの年代や関心、適性等に応じた、日常的にスポーツに親しむ機会の充実
- ・ 香川県立アリーナの整備等県立スポーツ施設の充実

スポーツ競技力の向上

- ・ ジュニアからトップアスリートに至るまでの総合的な競技力向上

誰もがスポーツを「する」「みる」「ささえる」活動ができるよう、スポーツに親しむことができる環境づくりに努める必要がある。

競技スポーツについては、全国大会や国際大会において活躍できるトップアスリートを目指し、競技力を高めることができる環境整備を推進する必要がある。

8 文化芸術に親しむ環境づくり (文化芸術による地域づくり)

令和4年度の主な取組み

③

文化芸術による
地域づくり

- ・ 文化財保護指導委員による巡回や、計画的な保存修理の実施
- ・ 讃岐国府跡調査事業の実施
- ・ 「風流踊」無形文化遺産登録推進事業（ユネスコ無形文化遺産登録）

国県指定文化財件数

(件)

	H29	H30	R元	R2	R3	R4
新指定文化財(国)	1	1	4	0	2	1
新指定文化財(県)	2	1	3	2	0	0
計	3	2	7	2	2	1

文化財の総指定件数 (令和4年度)

404件

- ・国指定文化財 179件
- ・県指定文化財 225件

国・県指定文化財の指定が着実に進んでいます。

8 文化芸術に親しむ環境づくり (文化芸術による地域づくり)

主な課題、方向性等

- ・文化財の国指定及び県指定や登録の推進による文化財保護の促進
- ・讃岐国府跡調査事業や地域総合調査研究の成果を活用した文化財保護意識の普及や地域活性化
- ・市町と連携した地域の文化財・文化遺産の調査・保存
- ・市町による「文化財保存活用地域計画」や個別の文化財保存活用計画の作成作業等の促進

個別の文化財保護に加え、文化財を地域ごとに一体的に捉え、その個性(地域性)を明確にし、一層の保存・活用を推進する必要がある。